

葉山町教育委員会 1 月定例会会議録

- 1 開会年月日 令和 7 年 1 月 1 5 日 (水)
- 2 開会場所 保育園・教育総合センター 会議室
- 3 出席委員 教育長 稲垣一郎
教育長職務代理者 小峰みち子
委員 鈴木伸久
委員 下位勇一
委員 清水衣里
- 4 出席職員 教育部長 虫賀和弘
教育総務課長 武藤達矢
学校教育課長兼教育研究所長 瀧名恵美子
生涯学習課長兼図書館長 守谷悦輝
- 5 議長 教育長 稲垣一郎
- 6 書記 教育部長 虫賀和弘
- 7 開会 午前 1 0 時 0 0 分
- 8 閉会 午前 1 1 時 4 6 分
- 9 次第 日程第 1 前回会議録について (葉山町教育委員会 12 月定例会会議録)
日程第 2 教育長の報告事項について
日程第 3 議案第 17 号 令和 7 年度葉山町教育予算 (案) について
日程第 4 各課からの報告
①生涯学習課
 - ・二十歳のつどいについて
 - ・草津スキー教室について日程第 5 その他

(開会宣言)

- 教 育 長) ただいまから葉山町教育委員会 1 月定例会を開会いたします。
- 本会議につきましては、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 14 条第 3 項の規定による定足数に達しておりますので、有効に成立しております。
- 時刻は 10 時ちょうどでございます。
- 本日の定例会について、傍聴人が 1 名いることをご報告いたします。傍聴人の方は携帯電話の電源をお切りくださいますようお願い申し上げます。
- ここで、会議次第の確認の前に 1 件ご報告させていただきます。11 月 27 日に開催された町議会第 4 回定例会において、小峰委員が全会一致の同意を受けて再任

されることとなりました。引き続きよろしくお願ひ申し上げたいと思います。なお、任命式は1月6日に執り行われましたことをご報告申し上げます。

それでは、小峰委員から一言、まずご挨拶をお願いいたします。

小峰委員) 小峰でございます。この年になっても、またさらに辞令を頂くことにちょっと不安はあったのですが、教育長をはじめ3人の教育委員の方と情報を共有できる楽しさ、それから事務局の方の協力、優秀な強力なサポートをいただけることがあれば、もうちょっと頑張れるかなと思っております。どうぞよろしくお願ひいたします。

教育長) それでは、会議のほうに戻らせていただきます。

本日の日程は次第のとおりです。会議次第についてご異議ございませんか。

委員全員) 異議なし。

教育長) ご異議なしと認めます。

なお、会議録作成上、質疑の際は挙手をしていただき、こちらで委員の名前を指名した後、発言をしてください。また、質疑をされるときは何についての質疑かを明確にお願ひをいたします。

(前回会議録について)

教育長) 日程第1「前回会議録について」を議題とします。

教育部長、説明をお願いします。

教育部長) それでは、12月定例会につきましてご報告いたします。各委員の皆様には会議録を配付させていただいておりますので、内容については省略させていただきます。なお、12月定例会は教育長及び教育委員の出席が5名、開会、午前10時、閉会、午前11時22分でございます。以上です。

教育長) ご意見、ご異議はございませんか。

委員全員) 異議なし。

教育長) ご異議なしと認めます。以上、前回会議録については原案のとおり承認されました。

(教育長の報告事項について)

教育長) 日程第2「教育長の報告事項について」を議題といたします。

別紙を見ていただくと、1月は3件ですかね、6日に辞令交付、10日に管理職研修会、13日に二十歳のつどいでございます。二十歳のつどいにつきましては、ご出席をいただいた委員もいらっしゃいますので、後ほど簡単に感想等、またご意見があればお知らせいただけるとありがたいと思います。

まず、1月6日（月曜日）に辞令交付を行いました。学校教育課にある意味では戦力としてありがたいと感じているところです。本人にも期待をしていますよというところでお話を差し上げました。

続きまして10日（金曜日）の午後から管理職研修会を開催いたしました。通常毎月ありますと、校長会議があり、戦略会議を設定していますが、例年1月については、校長・教頭に対しての研修を行うという形で動いておりますので、今回も、研修という形で管理職に集まっていたところと見えます。机上に多分最初のほうの配付をさせていただいたと思いますが、まずベネッセ教育総合研究所の佐藤さんと小野塚さんから、昨年度から長柄小・南郷中で開始をしている共同研究について、中間報告をいただいたところです。この共同研究は、来年度以降は葉山中学校区でも実施をしていきたいと考えておるところでございます。

内容については、お配りしたペーパーにしっかりと書かれていますが、少し解説をしながら進めてまいればと思っております。また、逆に申し上げますと、先ほど申した葉山中学校区の先生たちは、何となく何をやっているかというのは聞いていても、詳細についてはご存じないということがありますので、そういう意味でも、しっかりと今回のところで何をしているかということをご理解いただくための今回スタートのところでの研修ということをご理解いただければと思います。

まず、ペーパーで言うと、右の上のところに2と書いてある2ページ目のところですかね。共同研究の背景、それから共通認識についての部分、これについてもいま一度長柄・南郷の部分、それから葉山中学区の先生方にもご理解をいただくというところで解説をしていただきました。書かれているとおりですが、近年葉山町の総合教育会議では未来を見据え、教育のハード・ソフトの両方をどう変えていくかの議論が進行している最中です。ソフト面で言うならば、小中一貫教育の推進であり、新しい時代に必要となる資質・能力の育成であるという部分です。この研究を始めた一番最初のときには、今やそういうふうな形は動いていませんが、総合的な学習の時間を探究的な学習の時間として動かしていくために、「はやま科」という形の物の考え方はできないだろうかという部分で当初は動きました。教員集団、特に管理職それから一定の教員たちの共同研究をしていく中のところでは、「はやま科」という概念では実はなくて、さらに教科教育を通じて探究に必要な資質・能力の育成、特に探究の土台となる思考力を育成していくことが実は重要なのではないかとこのところに至った部分です。そういう中で、共通認識をしっかりとした上で、では一体全体、何をしていくことで探究の土台となる思考力を育成できるのかということに、これは研究の中心点を当てていこう

という形になりました。

上に3ページの3と書いてある部分をご覧いただければと思います。新しい学力観の時代の主体性重視に回帰しないためにどうしていくかというところで、ペーパーには落としてありますが、小中一貫教育を通して、わくわくする学びと探究の鍛練という部分から、自律的・創造的・対話的に行動できる社会に生きる力を育みたいという形の部分で、一定の物の考え方を整理しました。さらに言うならば、OECDの物の考え方になりますけれども、エージェンシーというもの、つまりこれは何かというと、自己承認や自己肯定感、学び方のような学びの基盤となる学びに向かう力や意欲に解消されるものではなく、むしろ学んだ先、思考する先に生まれてくる社会、世界に向かう力や意欲であって、社会をつくり変えていく力として捉えていくべきだと。これがエージェンシーであると。これを義務教育の段階で小中一貫の中のところでどう教科の授業の中で教科横断的にやっていくべきなのかというところを考えていきたいと思いますということになりました。

さて、それではベネッセが持っている一つの物の考え方にとりながら研究を進めていきたいと思いますということになったので、4ページ目、上に4と書いてあるところを見ていただければと思いますが、これについてはベネッセの教育研究所が開発したベネッセはキャン・ドゥー・ステートメントと呼んでいますが、この物の考え方を活用しながら、資質・能力の育成を意識した授業開発と効果検証を実行する。簡単に言いますと、恐らく教科の先生たちは、ふだん普通にやっていること、特に委員の方々も授業に行かれると、まだ全部の先生がやってないよねと、小峰委員にはよく怒られますが、目当てということがあります。この目当てというものをさらに分解をして、学校の中での単元として何を目標値に置くのかをあらかじめ教員が子どもたちに事前に伝えた上で授業を展開し、結果、振り返りをさせたところで、子どもたちの思考とさらに変革というものがしっかりとアウトプットで見れるかどうかという検証しましょうというのが今回のものです。

そこにも書かせていただいておりますが、教員個人の資質・能力、教育をどう教えるかの力というものに依存しない、学校単位、小中一貫の単位での指導力向上をしていきたいと思いますということです。よって、誰かが授業が上手、誰かの先生のこといいんだということに関しての、ある意味では義務教育の中でのよい点でもありますが、逆に欠点になっている部分を授業の中では学校全体の中の統一感を持ったものにしてまいりましょうということが根底にある研究だと思っていただけると非常にありがたいと思います。

下のベネッセの教育総研のねらいというところは、簡単に言うとベネッセはベネッセで研究しなければなりませんので、こう書かせていただいたとおり、学習

成果をしっかりと保証できたのかというところをキャン・ドゥー・ステートメントをやった結果としてできたのかという、これは成果的なものを見たいというのがベネッセの考え方です。

5 ページもキャン・ドゥー・ステートメントの物の考え方ですが、ペーパーのですね、例えば例で、右下のところに小さく 16、学習活動の設計、小学校社会科の例と書いてあるところをご覧いただければと思いますが、ここにこんな形でキャン・ドゥー・ステートメントをやっていくんだよという話なんです、キャン・ドゥー・ステートメントは一体何というのは、実はどこに載っているかという、もう 1 ページめくっていただくと、キャン・ドゥー・ステートメントということで、項番が 1 から 22 の項目まで載っているものがございます。これがベネッセが考えた一つの単元的な目当てに近い中のところでも整理がされたものです。つまり、課題設定、情報収集、整理・分析、整理・分析プラス最後にまとめ・表現という能力と、そこがしっかりと個別に理解ができたのか、子どもたちはそこをしっかりとできたのかというところを授業の中であらかじめ先ほど申したとおり、教科担当がしっかりとこれをあらかじめ子どもたちに提示をした上で、子どもたちはこの単元にターゲットを当てながら、項目にもターゲットを当てながら、個人の学習あるいはグループでの学習等々を進めてまいるということで、何か変化が起きるかという話を中心で。

戻っていただきまして、先ほどの 16 と書いてある小学校社会科の例をご覧いただくとありがたいと思います。例えば例です。A のところ、単元、日本の工業生産と貿易と運輸というところ、小学校の社会、5 年生の上のところからのピックアップです。目当てとした能力記述文は、先ほどの項目の 4、項目の 2、項目の 6、項目の 12、項目の 18、これをあらかじめ生徒のほうに、今回の単元ではこれをやるんだよ、頭の中に置いていてね、忘れちゃったときにはキャン・ドゥー・ステートメントの番号を見ながらしっかりとやってねという話をしているところです。

そして C のところ、授業の概要ですが、日本の貿易の特色について知り、これから貿易を続けていく上で大切なことをまとめて伝え合おうと。日本の自動車の主な輸出先や原油の現状から学習課題を作りましょうということで、下のところに項目別に、そこでは何を学ぶのかというターゲットは決まっています。右側には、ロイロノートを使った形で、子どもたちが考えたことをグループの中あるいはクラスの中で共有をしながら、より自分たちの考えを深めていくということを行っています。キャン・ドゥー・ステートメントの部分で、実はこれで 2 年目になりますので、1 年目と 2 年目の差異については後でお話をしますが、一

番の問題は、子どもたちがアウトプットをします。一定のところまで物が分かりました。こんなことを学習したので、私はこんなことが分かりましたということ誰かが考えたとします。例えば稲垣君が書きました。そうすると、隣に一緒に勉強していた虫賀君が違うことの意味を書いてくれます。そうすると、それを見ながら、あ、そうか、お互いの中で補完し合って、自分たちの考えをさらに深めていくということが明確にできていくことがやれているのか、やれていないのかというのが一つの成果指標という形になっていこうかと思えます。

さて、ページは7ページに飛びます。7ページは2023年度、つまり昨年度についてはどうだったかということについて、先生たちと子どもたちの全てのところでご意見をいただいた結果、教育委員会と先生たちとで共有を行ったものがあります。その中で、項番として4つ出させていただいているところがあります。

まずは1番目、先生がCDS、キャン・ドゥー・ステートメントを意図的に設定した授業構想を立てることができた。これが一つの成果です。今までは、ここまで物の考え方を整理してなかったということですね。先生たちは授業をしています。目当ても決めていたかもしれませんが、でも、細かい一つ一つの物の考え方は、授業構想の中に入ってなかったと思えますね。

2つ目、子どもたちの振り返りに自身を客観的に捉える視点が見えてきました。児童・生徒が学習の内容ではなく、課題解決のプロセスを振り返る側面が見られたこと。児童・生徒の学習活動における思考力の発揮状況を、先生がキャン・ドゥー・ステートメントの観点で捉えることができたこと。

3つ目、今後の取組の方向性について、先生たちから提案をいただいたことがあります。教科横断的な取組としていくためには、先生間で目線合わせや全体調整はもっと必要ですよということでした。これ、何かというと、長柄・南郷の手を挙げてくれた先生たちに、研究に参加してねという形で取り組んでいただいたので、全員の先生がここに参画はまだしてないです。というわけで、本当にやっていくためには、非常にある意味ではいいところも見えたけれども、目線合わせも必要だと。さらに職員間の中での誤差が出ないように調整しなきゃねという話が先生たちから出てきたということです。

4番目、キャン・ドゥー・ステートメントの共通言語化をさらに進めていくことが課題だとベネッセは感じています。

そして、2024年度には基本的に2023年度の取組を継続をします。ただし、学校間、小と中での連携を見通した体制をつくること。2023年度の参画をしてくれた先生を中心に、ほかの先生方にも取組を広げて、子ども1人につき複数教科で実施できる体制を組めればいいので、これは単純に言うと、特に中学校の場合は教

科担任制が完全に確立されています。小学校の場合は、高学年は基本的に長柄の場合は中学年も教科担任制が入っていますが、1人の生徒が社会科だけでやったものがあつたとするならば、社会科だけでしか判定ができないんですね。それでは成果にならないということで、その生徒が理科でも国語でもいろんなところできちとした形で同様の成果が出るのかということについて考えていくべきだよねというのが先生たちから話が出た上で、今年度やってみましょうという話になっています。

ただ、先生たちからは、やはりこれについては今までやったことのない手法があるので、事前の研究だとか授業研究だとか、あるいはまとめていかなければならないのをわざわざ、2023年度はグーグルのフォームがあるし、簡単に生徒たちはやれるにもかかわらず、わざわざ紙で全部やった先生がいるんですよ。それは時間がかかりますよね。なので、そういう意味で言うと、少し教員の負担があつたんだという意見があつたのも事実です。これについては、今年度行うに当たっては、先ほど申したグーグルのほうでのフォームにおける自動集計であるとか、あるいはロイロノートでできることはどこまであるのかということを含めて、GIGA端末をフルに使っていただいて、よりよい授業をつくっていただきたいというところは、こちらもお話をしてきたところです。

それから8ページ、今年の途中経過ということで、P8からP10あたりのところまで、本年度まだ途中なので完全な総括はできていませんが、報告がございました。ヒアリングでの先生方からのコメントも何点か出てきています。ちょっと読んでみますと、目標設定して自分で振り返るという流れ、自分で考えながらやっているなと感じた。そういう力をつけるのは、中学校に上がる上でも大事だと感じている。これは教員の考え方ですね。さらに言うと、CDS、キャン・ドゥー・ステートメントでは、目当てであり達成できたかという視点にもなる、学び方の振り返りにもなりますねという話です。

さらに下に行って、1つ目のところ、昨年度より参画の2年目になる先生たちです。昨年度は授業に入るときにCDSを示した。今年度は振り返り時に自分で選ぶようにさせた。おのおの自己認知ができていた。それを見ながら自分で考えていた。結果を踏まえて、自分で決めていくということが大切なのではないかと。ただし、言葉の使い方や届かない人に対してどこまで目当てを求めるかは難しいところだと思ったと。下のほうですが、1コマ授業4コマ研究はなかなか難しい。時間の割り振りは本当に悩んでいます。ほとんどの子が持ち帰り調べているというのが実態だという話も出ました。

下の赤のところですが、探究の過程を意識した授業設計、キャン・ドゥー・ス

テートメントの観点での振り返り、自分の授業評価をしている子どもたちの学習活動をキャン・ドゥー・ステートメントに沿って見取っている例も出てきているということです。先生たちは、去年やった人たちは、少し自分たちでカスタマイズをしながら進めているという状況ですかね。

9 ページのところは、振り返り、子どもたちの振り返り分析ですが、理科と社会科同等にやってくれた子たちが出てきていますので、その形の振り返りということで、これは見ていただければと思います。

下の振り返りの記述例とかいうのがありますが、ちょっと読んでいただければ分かると思います。知識とか技能に関しては、3人の武将がどのように全国統一を目指したかについて、よく知ることができました。思考力・判断力・表現力についてのところは、様々な情報が出てきましたが、それらの関わりを見つけ、つながりを理解することで情報の整理がうまくいきました。学びに向かう力、人間性と意欲、態度の研究、いい経験になったし、面白かったし、やってよかったとか、達成感もあったので、この学習が一番楽しかったですというふうに、子どもたちが言い始めている。これは単純に言うと、教員の教授のみの授業ではなくなってきているということで、自分たちが何を目標値にしていくかということが明確になってきているという一つの考え方だと思います。

10 ページのところです。これも途中経過です。子どもの振り返り分析、理科・社会科ということですが、一番上の社会科。社会科の振り返りで、子どもたちみずから国語にも関係がありそうだといい始めた。歴史だけではなく、何かを決めるときは人の意見を聞いて分かることが大事なので、様々な資料や媒体から情報を得たい。小学校6年生が言ってるんです。びっくりしちゃいますよね。すばらしいと思います。

小6の理科のところ、1つ目です。今回の学習では、班員と協力して活動することが多くて、よく深められたから、今後の学習でも班員と一緒に行動できれば、1人よりも深められるかなと感じた。これもいわゆる単純なグループ学習ではなくて、周りの人たちと相談をしながら、自分が気がつかなかったところを多分、隣の一緒の班の子たちが言ってくれたり、あるいはもしかしたら注意をしてくれたり、サゼスチョンをしてくれたということがあるんでしょうね。下のところ、3つ目ですが、理科の学習以外でも生かすことができると考えていることを子どもたちが言っている。

中学校の2年のところについてですが、1つ目、反応と反射の違いを理解するのに時間がかかったと。しかし、時間をかけたほど比べる力というのがついたと。今回の学習を踏まえて疑問に思ったことは、何かと比べてみると分かるかもしれ

ないということを学びました。これ、疑問が出てくるというのはすばらしいですね。本来はこれまでは言われたことをいかに覚えていくかというところで、授業は終わっていたはずなんです。さらにそこから疑問が自ら湧いてきたということ言語化して残しているということ、この考え方は非常に大きいと思います。

2つ目の後半は、自分で証明することを今後やろうと考えが変わりましたとか、もう1個下は、他の視点で考えることも大切だというふうに、考えが変わる。共に考えが変わるというふうに、思考のもののプロセスが変わっているということがここで見えます。

最後のところですが、このテーマを通して自分が知った情報を整理してから、その情報が本当かどうかを調べることの大切さが分かりましたということが書かれています。これも今までは書いてあるもの、あるいは教員が言ったことを鵜呑みにだけしてきた。ところが、そうではないんじゃないか。特に昨今言われるインターネット上にあふれている様々な情報はフェイクニュースが山ほどあるわけですから、それについても自分でしっかりと調べなきゃ駄目なんじゃないかなというところで、一つ物の考え方を整理し始めたというところがあるということです。

11 ページのところにも、途中経過報告が書かれています。ここも読んでいただければ分かると思いますが、やはり言葉として出てきているのが、疑問であるとか様々な視点であるとか、それから一つの情報だけを信じていたら誤情報で覚えてしまうことがあるんだということだとか、そこに至るためには共有をしていく、ほかの子たちと共有していくことで、よりきちっとしたものに近づいていくんだということ子どもたちが理解し始めているということがあるということです。

こんな形で、キャン・ドゥー・ステートメントという非常にある意味では単純な22項目であります。これを正確に子どもたちに伝えながら授業を行って、最終的に振り返りをしていくということを通して常に行っていくと、子どもたちの思考は恐らく今までとは変わっていくというのが、子どもたちの文面で分かり始めてきていますという途中経過までお話をいただいたというところがベネッセの教育研究所の途中経過というところで、ちょっと足早にしゃべりましたが、何となく子どもたちが今までよりも何となく頭の中でいろんなことを考え始めたという、いいきっかけになりつつあるんだということだけご理解いただくと非常にありがたいかなと思っています。

続きまして、同じベネッセの教育研究所の庄子寛之さんから、どちらかという研修で本当に管理職として何をどう考えていくのか、自分たちがどういう立ち位置で学校を運営していくべきなのかということも含めて、様々な形でお話をい

ただいた部分があります。これについては、本当に研修の中で楽しげに進行をしていただきました。お題目は「これからの時代の学校教育の在り方」というお題目でした。これについては、申し訳ありません。ペーパーが多過ぎるのでの配りしてないので、概略だけお話をしていきます。庄子さん自身は、もともと東京都の狛江市とか世田谷区の中で小学校の教員をされていた方です。現在はベネッセ教育総合研究所の教育イノベーションセンターの主任研究員をされていて、去年だけでも恐らく、小学校、中学校、高校、それから各施設、教育委員会を含めて300か所以上、多分レクチャーに行かれています。この日の前日は沖縄にいらっしゃって、その前の日は石垣島にいたということですね。多分、ほぼそこらじゅうに、庄子さんと言えば、小学校の先生たちは知っている方です。彼は、ラクロスという競技がありますよね。大学のラクロス、明治学院大学のラクロスの監督でもあって、さらに言うならば、女子の日本代表の監督もされています。非常にある意味ではアクティブで、いろんなことをされている方だとお考えください。

まず1つ目に庄子さんがお題目で出したのは、知るということ、つながるということ、これが管理職にとっては非常にある意味で重要なんじゃないかという話からスタートをしました。アイスブレイクの中でこの話をさせていただきました。1つ目の結果結論としては、彼はこう言いました。結局は対話しかない。対話をしない限りは駄目なんだという結論めいた部分を話してくれました。先生たちはグループになって、その後、いろんなことをやりましたが、あまりなかなかしないんでしょけど、グループの中で誰かを、とにかく褒めまくる。聞いていると褒め殺しに近いぐらい褒めまくって、フローワークをしましょうということで、校長先生・教頭先生入り交じって、褒め褒め大会をやりましたね。それも、できるだけどの観点でどういうふうにして、何を褒めるのかというのが、その中ではやはり観点はあるんでしょね。どちらかという、パーソナルに関することだったり、見た目であったり、雰囲気だったり、いろんな形でのこれを各先生方されていました。それが終わった後に、本日のゴールはどこですよというお話をされましたが、本日のゴールの庄子さんが設定されたものは、これから申しあげることです。これからの時代を生きる先生方が、校種を超えた変化を知り、対話し、学校経営についてのヒントを得る。これがゴールとおっしゃいましたね。

次にワークで、やはり先生たちが三、四人のグループになったままのところまでワークをしました。これからの時代って、どう変化していきますか。これについて皆さんで話してねということが最初。その次に、自分が初任のときと学校は何が変わりましたかというワーク。それから、未来を生きる子どもたちのために、これからどんな学校にすればいいと思いますかというワーク。別に答えがあるわ

けではない。でも、管理職の方々が一人一人が考えている物の考え方は、なかなか学校内でこういう話ってできないですね。なので、アウトプットをしていく中で自分の中で整理をしていく。さっきの実を言うとキャン・ドゥー・ステートメントと変わらないです。皆さんがしゃべっていくことで、グループの中で違う意見を聞いたり、様々な観点を見聞きすることで、自分の中で作り上げてしまっているもの以外のものを管理職としてしっかりと取り入れながらやってねというものの庄子さんの考え方がこのワークになります。やった結果として、結局は対話しかないというお話が出てきました。

そして、一つどちらかというところレクチャーの中での庄子さんがしゃべる部分に少し移りましたが、我々が迎える未来ということで、まずは一番でかいのは、人口減少だというお話をされました。いろんな要因はあるけれど、一番の問題は人口減少であるということです。国土審議会のデータも示されました。人口のピーク、2004年12月にピークだったというのが日本です。このときにどれだけの人間たちがいたのかという部分、1億2,000万強、このときにピークで日本はいたんですね。今どうなっているかというところ、人口減少、人口減少と言われていますが、高齢化率が上がっていますので、子どもたちの数は減っています。ただし、高齢化率は上がっていますので、でたらめに人口減少はまだしていない。ピークから少し下がったところが今の日本ですよという話でした。2050年の推計は、9,500万ちょっとになってしまうという推計です。場合によっては、今の人口推計から考えると、さらにこれは加速度的に下がっていく可能性があるだろうというところ。2050年の高齢化率は39.6%の見込みです。さらに、0～17歳人口ですが、2020年から2040年の変遷で、何と25%減になるというところ、2040年であると2020年から比較しても25%減、1,377万人程度になってしまうでしょうというお話でした。

ただし、ボリュームゾーンは簡単に言うと、東京一極集中なので、東京のボリュームゾーンは減っていかないでしょうという考え方にまだ立っています。地方はどうなっていくかというところ、そこは非常に厳しい。葉山というこの町がどうなっていくかは、これまでのところで住み続けたい町ナンバーワンを3年とりましたが、とはいえ、子どもたちの減少については、やはり下がっていくのは目に見えている。どこまで下がっていくのか、簡単に言うと、東京23区と同じような形でのものになっていけるのかというところ、それはなかなか難しだろうという考え方があります。

子ども人口と言われる15歳以下の数ですが、1954年には2,989万人いたというのが子ども人口です。2020年現在1,493万人、ここまで減少しています。出生数

の予測についても、これも新聞等々でお分かりのとおり、2040年には70万人を全体的に切ってしまうというのが、これが将来人口推計の中の考え方です。場合によっては、もっともっと早くこれが下がっていくということも、ここのところ言われている話ですね。日本総研が出した部分ですが、2024年の出生数は68.5万人、婚姻数は47.5万組の見通しであるというところですね。ただ一方、これも世界に目を移していただくと、人口は相変わらず増えていますよね。世界人口は増えています。日本は下がっているというところですね。

中学校以降の物の考え方というのを少し話をさせていただきました。私はもともと高校の教員なので、非常に今でもニュース等のところでも関心がありますし、もともとの同僚の人間たちからもたくさん情報が入ってまいります。何かというと、1つは中学校から高校に行くときの出口議論、つまり高校進学がどうなっていくかという考え方です。高校進学は、恐らく入学試験が今の入学試験のやり方はもうなくなっていくだろう。もっと言うと、マッチングに近い形になっていく。神奈川県教育委員会も、今年度中に後期の統廃合校を含めての様々な情報が多分秋口までに出てくるでしょう。それで高校改革終わるかもしれません。分かりません。ただ、少なくともどんどんどんどん学校数が減っています。マッチングに変わっていく、つまり一般入試の競争選抜からマッチングに変わるよと、どうということかということ、単純に言うと、近い学校に行ったほうが良いというふうに変っていくでしょう。よっぽどの学校以外。これは私学も含めての考え方になっていく可能性が今後はありますよということです。特に地方に関しては、首都圏のように私学はないですから、そういう意味で言うと自分の近い学校、つまり高校に進学していくマッチングに変わっていくでしょうね。今までの学力に応じて進学をしていくという枠組み、仕組みは、多分なくなっていくでしょうというのが2040年には確実にそうなるという話です。

さらに、大学のことを考えると、大学も今やいわゆる東大・京大を含めて旧帝大プラス関東エリアで言うと早慶以外の大学については、今年東洋大学が少し、本来であるならばやっちゃいけないんじゃないですかと言われるような入試を行いました。文科省は指導をしています。単純に言うと、秋口に事前に一般の試験を行って、そこで入学者を一定数採ってしまうということを東洋大が始めました。神奈川で言うと、昔から神奈川大学が給費生をやってますよね。給費生とはちょっと考え方が違います。そうではなくて、一般の入学者を本来大学入学に関しては全部の大学での決め事が文部科学省によって出されていますので、それにのっかってやらなきゃいけないことになっています。なので、総合的な選抜つまりAO、かつての。については、秋口までにやりなさいね。一般入試については2月

以降でやりなさいね。共通テストについては今度の土・日に入ります。それをうまく活用しながら大学入試が行われるのが、これが全校の大学の一つの決め事だったにもかかわらず、東洋大が違うことを始めました。これは簡単に言うと、大学が人集めに非常に苦心を始めているという状況だということです。

となれば、これから先に大学はどうなっていくのか。どんどんどんどん縮小していく。場合によっては大学自体なくなってしまう大学も出てくるのは、これまた目に見えているということでした。首都圏はまだもつかもしれませんが、残念ながら地方大学の国公立は残るでしょうから、地方の私学の大学については、よほどのメリットがない限り、なかなか厳しくなっていくんだというところで考えていただければと思います。

もう一つ言うと、大学の後、今度は社会ということを考えていったときに、今、全世界の中で、かつて日本はたくさんの、これはもう鈴木さんがよくご承知だと思いますが、本当に日本の企業は全世界の中でもトップクラスの営業利益を含めて資産を持っているところがたくさんありました。残念ながら今はなかなか厳しいですね。特にユニコーンと言われるような企業が日本の中では育たなかったという事実があります。例えばG A F Aと呼ばれるようなものは、相変わらず非常に大きな資産を持ち、会社としての力も持ち続けているところです。例えばG A F Aでしたら、アップル、マイクロソフト、アマゾン、グーグル、ロイヤル・ダッチ・シェル、それからバークシャー・ハザウェイ、アリババグループ、それからテンセントホールディングス、フェイスブック、J Pモルガン、こういうところが全世界の中でトップ 10 に入ってくるようなところで、日本の会社は一つももう入ってこないですね。

そういう中のところを考えていったときに、何が言いたいかというと、庄子さんは社会、大学入試、高校入試、その下にあるのが基礎的な部分のものを考えていくのは、義務教育なんだよという部分を暗に示してお話をいただいているところです。日本の大学の選抜も、先ほど申した一般選抜が当たり前だった私たちの頃と比べて、もう既に学校推薦型、学校の指定校ですね、かつてのね。それから総合選抜、AO、これが全部の大学の中で、もう一般選抜のほうが比率が下がってしまいました。総合選抜の学校推薦型ばかり。これが実態だということです。

この前も少し小峰委員にお話ししましたが、例えば総合選抜的な物の考え方で、お茶の水大学がフンボルト入試というのを始めました。これは文系と理系に分かれているんですが、目指しているところは単なる知識量の多寡ではなくて、その知識をいかに応用できるかが問われるという形の入試です。文系はプレゼミナー

ルがあって、ゼミナールを受けてもらうんです。この子たちは、この試験を受ける場合に必ず受けるんです。プレゼミナールは、サモアってどんな国だとか、データサイエンスによる文学作品の計量分析ってどういうこと、あるいは子どもの学びを考えるってどういうことみたいな形で、教授の方々からプレゼミナールを事前に受けます。その結果、令和5年度の課題、つまりテスト、これは何だったかという、図書館に6時間缶詰めにされて、お茶大の図書館の中にある本をどれを使っても構わないということで、本物とは何ですか、自由に論じてくださいということ課題として与えられています。1日目にそれを、これ、字数制限ありません。全くただ単に自由に論じてくださいというところを6時間かけてやる。もう1日、2日目にグループ討論と面接が行われて試験の結果が出ます。これ、今までの試験と全く違いますよね。ある意味では欧米の大学の入選に少し近づいてきましたかね。恐らく教授の方が責任を持って書かれたものをしっかりと読み、さらに言うとグループ面接と面接で、その中でこの生徒を採りたいと思った人間を多分合格をさせている。

理系のほうも実は同じような形で、プレゼミナールがされて、プレゼミナールでは光と宇宙、生物学と顕微鏡、最適化などの事前レクチャーがされて、そして一次選考は書類審査だけだと。二次審査は実験室、お茶大の理系の実験室のところで実験を行って、レポートを作成した上で口頭試問がされるということで、入試の結果が出ます。これも恐らくどんな実験をするかというのは、多分決められてないと思いますね。自分たちで考えて、自分たちで決めて、その中での過程を先生たちがご覧になってという形なんだと思います。こんなものが本当にあちこちの大学でたくさん出てきています。

さらに、社会の話ももう一つ、いい話であるのか悪い話であるのか、これはとりようですが、私たちの時代と違って、私もそうですけれども、基本的には転職しないじゃないですか。ところが、今は転職をして、自分たちのグレードを上げていくという考え方がほとんどの子たちにそこに根づいている。よって、今は入社して恐らく3年以内程度に離職をして、違う会社に移っていくということを、30%どころか恐らく50%近い人たちがそういう傾向に動いているよという部分があります。

そんな中で考えていくと、これから先の社会で生きていくための力というのは、やはり高校を卒業してからだと駄目なんですね。今回のこれとは関係ないんですが、私が懇意にさせていただいている元東大の教授、現在は早稲田大学の教育学部の大学院のところで教授をされている濱中淳子先生が、つい最近、大学生のインタビュー、すごいたくさんの数です。それもいろんな大学の生徒たち、学

生に対してインタビューをしてきています。その結果なので、私がそう思っているわけではないんですが、いわゆる一般的に言うならば、ちまたではFランと呼ばれる大学がありますよね。そういう大学の学生さんたちのインタビュー結果は、簡単に言うところのことです。4年間勉強の域を出ない。大学なんです、高校までの勉強と同じことを4年間しているだけというのがインタビューのところで見えてきた。一流大学等々のところと中堅校の部分については、その一番上の話をすれば、それで中間層になるというのはお分かりだと思いますが、一番上の大学の人たちは、大学の4年間で学問というところにアタッチメントしているということ。さらに言うならば、そこで社会に出る人もいますが、大学院に進んで、さらに学問をきわめていくという方向性に動いていっている学生が多いと。さらに言うならば、昨今は一般の企業に就職するよりも、起業をしてしまうという形の子たちの物の考え方も整理されてきている。その中間層にある大学は、やはりそこがまぜこぜです。学問にアタッチメントできる人たちもいれば、勉強のレベルでしかないということですね。濱中先生、前におっしゃっていましたが、東大にいたときと早稲田にいるときの一番の違いは何かということ、前にお話ししたかもしれません。今でも同じだと思いますけれども、国公立大学は1人の教授が面倒を見ることができる学生の数は20人弱なんだそうです。ところが、早慶であっても1人の学生を面倒を見れるのは60人、70人なんだそうです。ここで決定的な違いが出ますね。なので、濱中先生がおっしゃっていたのは、早稲田に行って一番思ったのは、自らアプローチをしてこない学生は、大学生としての先ほど言う学問のところに進まない。つまり勉強をしたというレベルのところ、早慶であってもそうなんだろうというのが実態なんだというお話をされました。ある面では非常におっかない話ですよ。

そんな中で、チャットGPTに、つまり生成AIの話もされてきました。たまたまお子さんが中3だということで、そんな話をされたんだと思いますが、令和6年度の都立の高等学校の入学者選抜の数学の問題をたまたま見せてくれました。何にびっくりしたかということ、庄子さん一番びっくりしたのは、何年か前の数学の問題の全く同じなんだけど、数字だけ違うというものが平然と出されている。というのが今の都立の問題です。これ、生成AIにやらせると、写真撮って、変な話ですが、写真撮ってぺたっと貼るだけで、ほぼというより100%このレベルで言うと正解は出ます。チャットGPTのある面ではデータベースのすばらしさなんだろうけれども、それからそこをどうやって引っ張ってくるかということなんだろうけど、東大の個別入試の非常に個の特性的な部分、それからアーティスティックな部分のところとかを問わないものもあるので、そこについてはほ

ば 100% 答えが出てましたね。

となると、今のヒントは、東大の個別試験の個人のパーソナルがある程度反映したり、アーティスティックな部分であったり、それはレトリックであったり、様々な形のものが問われる試験は、しっかりした形で採点もされるんだと思います。そこに子どもたちをもっていってあげるために、さあ、さっきの返しなんです。小学校、中学校で今までのように正解だけを求めて、はい、おしまいという形で、高校入試ですらそれをしてきたという物の考え方は、変えていかなければならないでしょうねというところが庄子さんの言いたいところだと思います。教師あるいは親がファシリテーターだとするならば、教師とか親は勉強する理由だとか進みぐあいの確認だとか、子どもたちのモチベーションを管理したりとか、分からないと言っている子たちへの指導だったり、発展の指導をしっかりとしていくのが教員や親、保護者たちのこれからの物の考え方でしょうということでした。

もう 1 個その先に、先生たち、この話ばかり聞いていると疲れちゃうので、またワークをやっていました。上のほうに矢印で上下、上が改革、下が慎重、先生たちどっちですかという問いを出しました。動いてくださいとあって、こっち側が改革、線があって、こっちが慎重。さあ、どっちという話でしたが、葉山はどっちに動いたと思いますか。多くは。管理職ですよ。ちょっと聞きませんが、後でもし何かあれば言ってください。庄子さん、びっくりしていたのは、葉山の管理職の人たち、ほぼほぼ改革に動いたんですよ。もう 1 個、横線、縦線があって横線、そのまま今度は平行移動になります。左側、プロセス重視、向こう側、結果重視。じゃあ、そのまま平行移動してくださいとあって、改革派の人も結果重視の人とプロセス重視の人と、両方ともいました。でも、教員は恐らくはプロセス重視が多だろうというのは普通ですよ。私もそう思った。結果、プロセス重視が多かったです。改革派でありながらプロセスを重視するということでした。たまたまですが、管理職で結果重視の一番端っこに寄った人間が 1 人だけいました。誰かということにはちょっと置いて。専門教科からすると、どちらかというプロセスのほうに動くべきなんじゃないのというふうな教科の専門性を持っている人でしたが、本人に庄子さんが聞いたところ、今の段階では結果が明確になってなければプロセスの評価はできないからという言い方をされてましたね。多分、分かっているながらやられたんでしょう。

さて、最後に何個か、職員間の中のところでの問題提起をされました。職員間の目で、職員間の目、同調はする。やるべきことを狭めていませんかという問題提起があった。これは職員室、300 校以上のところに…300 か所ですかね、あちら

こちらに行かれて、働き方改革も含めて、様々なレクチャーをされてきて、1校に何回も入られているところもあるんです、彼は。そういう中での多分一つ結論なんだと思います。職員間でやるべきことを狭めているところが多いんだとおっしゃいました。だから働き方改革も進んでいかない。誰かがそこでストッパー役をしているというところがあるんだと。でも、何とかするためには、最初の話です。結局は対話をするしかない。ここにいかないと、それも解消しないというお話でした。

今後変えていくための4つのステップということで、簡単にこうやってみたらどうですかというステップを4つ頂きました。1つ目、理想の学校をみんなで考えてみよう。つまり、個人個人が理想の学校をまず頭の中でイメージできてますか。これが1つ目。

2つ目、課題、つまりいらぬもの、捨ててしまっているもの、これを全部出し切ってみましょう。これが2つ目。

3つ目は、何となく庄子さんの感覚論、これはロジックじゃないなと思いましたけど、ときめきで判断したらどうですか。簡単に言うと、自分がそう思って、ああ、これだと思ったことで判断したらどうですか。でも、これ、結構当たっていますよね。

4つ目、正しい順番で伝えて実行すること。正しい順番が整理できてないと、ぐちゃぐちゃになっちゃうので、よく部長とも話しますが、行政の中でも同じことが起きます。業務の洗い出しをしないで、新しいことを始めるということがよくあるんです。つまり、業務プロセスが明確になっていない、全員が理解してないのに、フローチャートが分かっていないにもかかわらず、新しいことを始めると、お金だけかかって、結果うまくいかないです。それと同じことが学校の中でもきっとあるんでしょうというお話だと思います。

先ほどの関係の部分で、最後のところで、いろいろな学校の働き方改革の事例の写真を見せていただきました。これはこれで、先生たちは、ああ、こういうのもできるんだねと思ったでしょう。ICT使っていたり、いろいろです。最後に何個か哲学者さんたちとかの、どちらかといういい言葉というのを出示していただきました。1つ目はニーチェの言葉です。事実という言葉は存在しない。そこには解釈があるだけだというニーチェの言葉。もう一つは、ドラッカーです。21世紀に重要なただ一つのスキルは、新しいスキルを学ぶスキルだという考え方。ピーター・ドラッカーらしいですね。こんなところをお話をいただいた中で、先生たちは非常に楽しげに、ワークにも取り組んでいましたし、場合によっては自分たちがどこの位置で何をしていくのかということも、もう一度考えていた

だいたところがあるんじゃないかと考えています。庄子さんには本当にある意味では面白おかしく、職員、管理職を、僕が明確に庄子さんに話したのは、レクチャーが終わった後に先生たち、つまり管理職の人たちが何か楽しげに帰るようなレクチャーしてねと、それだけ頼んだんです。なので、非常に楽しげにみんなで語らいながら、楽しげに帰って行ったというところについては、成功だったと思います。さらに言うと、先ほどの4つのステップ型もお話しいただいたので、頭の中で整理ができている人たちは、早速3学期になるでしょうかね、1月の職員室でいろんなことを始めていただけたと思っています。

さて、長くなりましたが、最後に13日（月曜日）、11時から葉山町の二十歳のつどいが開催されましたので、報告をさせていただいていきたいと思います。これについても、委員の方々、ご出席をいただいたと思いますので、先ほどのとおり何かご感想があれば、後ほどお聞かせいただければ大変ありがたいと思います。

今年も、というよりは4年目、4回目で私、出てますけれども、年々落ち着いてきているなという感覚があります。さらに言うと、今年は実行委員さんたちの発案だったんでしょう。多くの二十歳が、やってきた二十歳の人たちは、葉山中学校と南郷中学校の卒業生がほぼほぼだったと。仮に違う子たちもいると思いますよ。中学校から私学に行っていたりとか、横国の鎌倉に行っていたりとか、いろいろいるのでね、葉山の場合は。でも、少なくとも多くの人たちがそうだったので、みんなで葉中の校歌と南郷中の校歌を歌いましょうということをやりました。まあ南郷中は昔っぼいんでしょうね、相変わらずね。応援団のようにみんなで歌ってました。葉中は葉中で、どちらかという少し穏やかな校歌ですので、それもしっかりと歌って、楽しそうに式は終わったという状況でした。非常にある意味では落ち着いた、いい式だったと私は思っております。

以上で、すみません、私からの報告とさせていただきます。もし二十歳のつどいについて等々でご感想等々あれば、お話をいただければと思いますが。では何かご意見、ご質疑等あればお知らせください。よろしく願いいたします。

小峰委員、どうぞ。

小峰委員) 今日、教育長からベネッセさんからの実践研究の成果報告をお話しいただいて、本当に授業に対していい方向に踏み出せているのかなと思いました。1つ感想は、課題設定からまとめ・表現まで22項目で設定されている目標ですけれども、その中にやはり大半を占めているのは情報という言葉だと思うんですけれども、今の時代、情報の信頼性よりも、拡散ということが重要視されているみたいな中であって、子どもたちがどれだけ自分たちで信頼のある情報を集めるかということとは、本当に先生方の指導が大変だなと思う。それがまず1つ感想になりました。

もう一つ、これは教育長に何うのがよろしいかなと思うんですけども、4ページのところに授業力、先生方の指導力の向上のためには、個人のスキルや努力とか、そういうものに依存せず、学校単位で指導力向上の機会を創出するという言葉があるんですけども、私には何かあまりイメージが浮かばないんです、教育長がこの話を伺って、どんなふうにして全体的に、先生方の指導力が向上していくプロセスみたいなものをお感じになったのかをお聞かせいただけたらと思います。

教 育 長) 私の考えでいいですか。

小 峰 委 員) もちろんです。

教 育 長) 後段の話については、いつも申し上げますけれども、高等学校の例を申し上げますと、高等学校、昔は県立高校はほとんど個人で勝手に授業をしていました。その中で、テストも共通テストを行ってなかったです。したがって、教えてくれる人間によって、全く子どもたちの知的好奇心、それから学習に対する意欲も、教科の中で全く違ってしまいうんですね。そういうのがあって、私はちょうど教員をやっている時代あたりから、教科ごとに教科テストをしっかりと共通テストにしましょうという話で動いたことがあります。これは私の経験論ですが、結果、何をしたかという、その頃、私はどちらかという、勉強が大嫌いな子たちの集合体の学校の生徒指導をしていました。国語の教員ですけども。正直言って授業に全くならない先生と、授業がちゃんとできる先生の格差がありました。でも、それはどうアプローチしていけばそうでなくなっていくのかというのが、なかなか教員同士って難しいことがあったんですね。もしかすると、それは義務では今、同じようなことの過程にあるかもしれません。

高校は今は全校全て共通テストで動いています。何が起きたかという、きちっと教材を1年間何をするかを事前に同じ教科を教える人間で話し合いをします。その結果、どんな形で何を教えるのかは、本人たちに少し任せられます。ただし、評価をするための、学習評価をするためのテストは共通テストなので、両方で考えながらテストを作っていきます。となると、授業を行っている途中でも、どこを観点にするかは、おのずから話し合いをするんですよ。結果、子どもたちは、これも変な話ですけども、私が一緒に教えている先生が仮にですよ、授業はまだ新しい方で下手だったとしますよね。私は平然と授業を見に行ったりするんです。この先生、私の授業を見にくるんですよ。となると、その中でどうだったという話を普通にやっているんですよ。結果、子どもたちは授業をという、教員の一つの力量にターゲティングをせずに、授業の面白さ、教材の面白さに少しずつ向き始めるんですよ。自分が教えてもらった、考えたことがテストに出るじゃん。

できるようになったじゃんということは、子どもたちにとって大きいんですね。

結果、考えてみるに、ここに戻すと、小峰委員のお答えになるかどうか分かりませんが、現在も恐らく中学校、小学校では、教科指導を教科担任制は中学校はやっているはずですけど、葉中はクラス規模がありますので、複数で同一教科を教えることが多いと思いますが、南郷中は恐らくそうではないんじゃないかなと思います。となると、例えば中1の国語、中2の国語、中3の国語、上がっていけば1人の人間がずっと面倒を見ていく可能性が高いわけですよ。教科の中での横のつながりを保ちにくいとするならば、これは小学校も同じです。結果、どんな方法で授業をしていくかのところについて、横串を刺していくことで、結果としてはみんなのレベルが上がっていく。さらに言うと、小学校、中学校は高校よりもずっと、ある意味で熱心なのは、教科に対する教科研究会をしっかりとやっているはずなんです。やっているにもかかわらず、視点が違う方向性に私は行っていた気がしますので、そこを違う形みんなが同じ方法論、つまり子どもたちの思考をどう変えていくかということにターゲットを当てていく中で、何かが変わっていくことがいいのではないかなと私は思っているんです。そういう感じでしょうか。

小峰委員) 私、この読み間違えというか、個人は努力を必要としないというふうに読んでしまったんです。

教育長) あ、そうではないです。

小峰委員) 個人は努力はしなきゃ駄目ですよ。個人が学ばないと、いい授業とか面白い授業とか、子どもたちに楽しさを与えられる授業にはならない。だけど、それを個人単位でやらなくてもいいよ。みんなでやりましょうねということですね。

教育長) そうですね。すみません。この書き方が悪かったんでしょう。

小峰委員) ここまで先生たちに努力してほしいなと思いました。ありがとうございます。

教育長) 小峰委員、ついぞとっては何ですが、二十歳のつどいはいかがでしたか。

小峰委員) 本当に久しぶり、3年ぶりですかね、私たちが出席させていただいたのは。やはりこぢんまりとした、葉山の成人式はいいなと思いましたし、今年は町長の話が、今までは私たちが伺ったのはご自分の体験、二十歳の頃や若いときの体験のお話が盛り込まれた話だったんですが、今年は実行委員からリクエストがあった葉山の町のよさということで、それをとても上手に町長がお話しされていました。さすがだなというふうにして伺いました。私は思っているのは、先ほど教育長も、中学校の校歌、あの子たちにとっては卒業式のときに歌えなかったという思いもあってね、よかったなと思うんですが、私はその前に「君が代」の斉唱もあったんだけど、うーんと思いつつながら、儀式だから、あってもいいかなと思っただけ

ど、それよりも葉山の町の歌、町歌、あれを子どもたちが歌えるようであればと思いました。今、5時になると町内に流れていますよね。だから、子どもたちにはなじみのあるメロディーなんだけれども、学校ではきっと指導がなかなかできないんだろうと思って。あれこそ歌えるようになると、葉山に対する愛着が感じられるのではないのでしょうか。歌えるから町の愛着にどうつながるかというのは、また別なのかもしれないけれども、でも、みんなが集まったとき、葉山の町の歌を歌えるんだったら、これもまたいいことなんじゃないかなと思いましたので、ああいう儀式のときにみんなですべてを歌えるようになったらよかったかなというふうに思いました。以上です。

教 育 長) 本当に私もそう思います。小峰委員に前に話した、横浜市は多分義務で、必ず横浜市の市歌をずっと練習しているので、横浜で育った子たちは横浜の歌、全員歌うんですよ。ですよね。なので、葉山はあんなにいい歌があるので、小・中学校でしっかりと全員が9年間歌っていけるようにしてあげるといいなという、それは確かにおっしゃるとおりです。ちょっとこれは濱名課長とも相談しながら進めていけると本当にいいですねと思います。ただ、これも校長先生ですとか、教員のみみんながそれをどう考えているのかということからスタートさせないといけないでしょうねと伺いました。ありがとうございます。

鈴木委員、何かご質問があればですが、なければ、もし二十歳のつどいでご感想があればお伺いしたいですが。

鈴木委員) 質問はございません。二十歳の集いについては、やっぱりいいなというのが正直な印象で、特に私自身が葉中出身なので、自分でいまだに歌えるんだと思いながら、よかったなど。下位委員ともそんな話をしていたんですけれども。ちょっと残念だったのが、いつもですと、もうちょっと恩師の数が多かったようなイメージがあるんですけれども、少なかったかなと。もちろんいろいろ事情もあったし、現役の方もいますけれども、お辞めになった方で来ていただける方があったらよかったんじゃないかなと思いました。以上です。

教 育 長) ありがとうございます。下位委員、何か。

下 位 委 員) 相変わらず素行がいい成人ばかりで、よくも悪くも葉山っぽいなと思いながら参加させていただきました。

南郷中の先生が代表でお立ちになったときに、特に何もありませんみたいな話をされて、すぐおられましたと思うんですけど、あそこに呼ばれている先生たちというのは、成人式実行委員会の人か呼んでいるから来ているわけですよね。呼ばれて、招待されて来たのに、かつ学校代表で前に出たときに、何も話さないってどうなのかなというのが正直な感想です。話が長いとか短いとかというのもある

かもしれないですけど、何かメッセージは言ってほしかったかなと思いました。

これも毎年なんですけど、280人ぐらい今回参加されているんですかね。福文の大会議室に280人入るといのは、なかなかの混雑ぶりです。私はあそこに行くたびに風邪をひくイメージがあるんですけど、今年はもちろん大丈夫だったんですけど。とはいえ、ほかに開催できる場所はないので難しいとは思いますが、それでも。

あとは、まだまだ私が知っている保護者の方がいっぱいいらっしゃるんで、終わって外に出たときに、皆さん写真を撮ったりとか、お子さんの前に来たりとかしていた方が、何で私たち中見せてもらえないのという声が結構多くいただいたので、何かしら見せてあげる方法があってもいいのかなと思いました。以上です。

教 育 長) ありがとうございます。南郷中は、生徒たちは、あれがまたパーソナルなんだということだというふうなところもあるのかもしれないですね。だから、逆に、変に、小さく盛り上がっていたかもしれないですね。でも、関係のない、葉山中学校の子どもたちにとっては、えっというふうになりますよね。そこも様々あるんだと思いますが。実行委員会の子たちが代表の先生を選んでいるんですか。

生涯学習課長) そうですね。

教 育 長) じゃあ、なおさら、多分パーソナルで選んだんでしょうね。と思います。

清水さん、残念ながらその日は欠席でした。何か全体を含めて、二十歳のつどいという一般論を含めて何かお思いなことがあれば。

清 水 委 員) 二十歳のつどい、朝は葉山におりましたので、皆さん晴れ着姿や、写真を撮っているご家族が海岸にいらして、今日が成人式だな、おめでたいなという気持ちになりました。20年間育てていらした保護者の方と、育ててきたお子さん方を、コロナが明けて、みんなで祝えるというのは本当にいいことだなと思いました。下位委員がおっしゃったような、お母様やお父様とか、それ以外の保護者の方も、ライブビューイングなどで、式を見られた保護者目線ではうれしいなと思います。ただ、もう大人なので、子ども目線でいくと親には見られたくないのかもしれないと考えたりもいたします。無事に、滞りなくできたことは、本当におめでたいお祝いだと改めて思いました。

本日経過報告いただきました件につきましては、来年は葉中校区でも実施予定ということで、ぜひ進めていただきたいと思いますのと、講演会にも来てくださった、シンポジウムに来てくださった工藤校長先生も、スーパーティーチャーはいらないんだということをおっしゃっていて、本当に個人のスーパー先生が学校を引っ張るのではなく、学校として学びを考えていくということはいいいことだと思います。指導法的には私学のやり方に似ているとは思いますが。特に小中一貫校の私

学は学校単位で特色を生かした学びをしています。どの先生が授業をしても同じように、生徒は同じテストを受けて、同程度の学力を維持していくというやり方なので、CDSというのはそこはかなり似通ったのは印象を受けました。

先生の振り返りの中で、8ページに、昨年度より参画の先生方のコメント抜粋ということで、言葉の伝え方が届かない人に対して、どこまで目当てを求めると難しいところだと気づいてくださっているところがよかったなと思います。私も葉山の学校を視察していて、積極的に取り入れているグループ学習を拝見しました。その中で生き生きとしている子、声の大きい子、グループ学習が向いている子も多く見受けましたが、逆に人前で発言するのが苦手だったり、ちょっとまだ慣れていないので気配を消している子、みんなの意見に、そうだなと言っているだけの受け身な児童も見ていたので、CDSの学びにどう受け身な児童を導いていくか。ということ課題だと気づいてくださっている先生がいることは、この報告書を見て安心した点です。以上です。

教 育 長) ありがとうございます。ほかに何かご質問等ございますでしょうか。よろしいですかね。そうしましたら、ご質疑がなければ、これにて質疑を終結します。

以上、教育長の報告事項については、これをもって終了とさせていただきます。

続きまして、日程第3、議案第17号「令和7年度葉山町教育予算（案）」についてでございますが、これらの議案は予算関係のため非公開とさせていただきます。よろしいでしょうか。

委員 全員) 異議なし。

教 育 長) それでは、議案第17号は非公開といたします。傍聴人に一時ご退席いただくために暫時休憩とさせていただきます。

(休 憩)

(再 開)

教 育 長) では再開をいたします。

(議案第17号)

教 育 長) 日程第3、議案第17号「令和7年度葉山町教育予算（案）」についてを議題とします。

議案について、教育部長、説明をお願い申し上げます。

教 育 部 長) 議案第17号令和7年度葉山町教育予算（案）について。

令和7年度葉山町議会第1回定例会において、令和7年度葉山町教育予算（案）に係る議決を経ることについて、異存がない旨を申し出るものとする。

(別紙)

令和7年1月15日提出

葉山町教育委員会
教育長 稲垣一郎

提案理由

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第29条の規定に基づき、町長より教育委員会の意見を求められましたので、葉山町教育委員会教育長に対する事務委任等に関する規則第2条第1項第4号の規定により提案するものです。

予算につきましては、教育総務課の予算で言いますと、学校再整備に係る予算が令和7年度は計上されておられませんので、その分、減額となっております。なお、学校再整備につきましては、本年度進めている学校整備等基本構想・基本計画、こちらがまとまった段階で令和7年度中に必要な予算があれば補正予算等に対応してまいりたいと思います。学校教育課の予算に関しては、児童・生徒の1台端末の更新時期を迎えますので、その分、予算が増額となっております。生涯学習課で大きなところで言いますと、古墳群の整備事業が終わりましたので、その分、その事業費が減額となっております。

説明は以上です。

教 育 長) ありがとうございます。では、全体見渡していただきまして、質疑に入りたいと思います。これより質疑を行います。ご質問等ございましたら、お願いをいたしたいと思います。いかがでしょうか。下位委員、お願いします。

下 位 委 員) 支出の教育費、小学校費、小学校教育振興事業、学校教育課の部分。100周年関連等ということで、葉山小学校 100 周年記念関連行事のための増だと思うんですけども、これ、具体的に幾らぐらいかかっているのでしょうか。

学校教育課長) 下位委員にも実行委員に入っていて、ありがとうございます。消耗品関係、記念誌関係、印刷製本費、校旗の新調等が主なメニューになっております。総額については少しお待ちください。

下 位 委 員) いえいえ、大丈夫です。多分170万ぐらいだと思うんですけど。

学校教育課長) 町の公費負担が172万8,800円で、PTAのほうから20万円の補助がある予定で、総額190万円ぐらいということで伺っています。

下 位 委 員) はい、承知しました。ありがとうございます。

続けて、よろしいでしょうか。

教 育 長) はい、どうぞ。

下 位 委 員) G I G A 端末の更新というのが先ほど部長からもありましたけれども、これが総額で2億円ぐらい計上されていると思うんですけども、これはまず、国なりの補助で返ってくるものなんではないかとということと、何台分がこの金額なんで

しょうかということです。

学校教育課長) これについては国のほうで、3分の2国が持つというところと、残り3分の1は地財措置というところで、基本的には1台5万5,000円の上限で補助が出る形になります。

教 育 長) 総台数。

学校教育課長) ちょっと後ほど。すみません、お時間ください。

教 育 長) 基本はご承知のとおりだと思いますが、今年度の5月1日付の児童・生徒数の分プラス15%の予備機分の総台数での要求になってくるのかなと。

下 位 委 員) 再度です。吹奏楽部の楽器不足分購入による増というのがございますが、大体280万円ぐらい増額になっていると思うんですけども、これが全部吹奏楽部の楽器不足購入に充てられているのでしょうか。

教 育 長) 280万全部が吹奏楽部オンリーのものなのか、ほかの部活動にも関わるのかというご質問でよろしいですか。

下 位 委 員) はい、そのとおりです。

学校教育課長) 前はほかの部活のものもありましたけれども、基本的には吹奏楽部の楽器代という形になっております。

教 育 長) よろしいですか。ほかにご質問ございますでしょうか。清水委員、どうぞ。

清 水 委 員) 歳入のところでお伺いします。歳入の2番目、しおさい公園の使用料が当初予算よりマイナス149。使用料というのは公園入場料なのか、具体的に何を含むのか教えていただけますでしょうか。

生涯学習課長) しおさい公園に関わるもので、入園料も含まますし、あと茶室使用料とか、細かいですが、自動販売機の電気使用料とか、全て含んでいるものになります。

清 水 委 員) その収入が減るというふうな見込み。

生涯学習課長) 一番減るものは、最近、コロナ禍過ぎても入園者数がなかなか戻ってこないということがありまして、そちらの部分で減っているということになります。

清 水 委 員) 歳出の部分で、博物館管理運営事業がマイナス計上で当初予算よりなっています。一般的には入場者数が増えないと、増えるための手だてをされるかと思いますが、逆に、庭園とプラス博物館というのは2大見どころだと思うんですけど、その予算を減らすということなんでしょうか。

生涯学習課長) 博物館の方は管理費が減っていますが、入園者数が減り、歳入が減ったために事業費を減らしたというわけではないです。光熱水費ですとか修繕料の部分の積算により予算が減ったということです。

清 水 委 員) 分かりました。

教 育 長) よろしいですか。入場者数の減による歳出の65万1,000円マイナスとはイコー

ルではなくて、事業の中の部分で、次年度は不必要であるというところでの歳出の抑制ということによろしいですか。

生涯学習課長) そうです。

教 育 長) よろしいですか。

清 水 委 員) はい、承知いたしました。

教 育 長) ほかにご質問ございますでしょうか。小峰委員、お願いします。

小 峰 委 員) 学校教育課の中の地域連携とか体験学習推進事業の中で、バス代、借り上げの補助ということなんですけれども、平均して年間、各学校でどのくらいバスの借り上げってあるんですか。平均というとおかしいけど、例えば何年生と何年生に使うとかというのがあったら教えていただきたいと思います。

学校教育課長) 小学校は各学年、必ず1回は利用して遠足等の校外学習に行っています。

小 峰 委 員) 1年から。

学校教育課長) はい。それから、宿泊を伴う、例えば5年生、小学校5年生、6年生、それから中学校の3年生に関しては泊を伴う移動ということで、バスの借り上げを利用している状況です。

教 育 長) よろしいでしょうか。

ほかにご質問ございますか。

学校教育課長) 先ほど下位委員よりご質問のあったタブレット台数です。まずは、令和6年の5月1日付け児童生徒数という形で計上しますので、そこが2,576台。端末の15%分が予備機になりますので合計2,961台という形になります。回答が遅くなりました。

下 位 委 員) ありがとうございます。

教 育 長) よろしくお願いします。

ほかにご質疑ございますでしょうか。よろしいですか。

ほかにご質疑がなければ、これにて終結をいたします。議案第17号について、承認することにご異議ありませんか。

委 員 全 員) 異議なし。

教 育 長) ありがとうございます。ご異議なしと認めます。以上、議案第17号令和7年度葉山町教育予算(案)については原案のとおり承認されました。

それでは、傍聴人入室のため、暫時休憩をいたします。

(休 憩)

(再 開)

教 育 長) では、再開をさせていただきます。

(各課からの報告)

教 育 長) 日程第4「各課からの報告」に入ります。

生涯学習課から報告事項があると伺っております。よろしく申し上げます。

生涯学習課長) では、生涯学習課から2点報告をさせていただきます。

初めに、先ほど教育長からもお話がありました令和7年度の二十歳のつどいについてです。お忙しいところ、ご出席いただきまして、どうもありがとうございました。令和7年1月13日(月曜日)に福祉文化会館にて開催いたしました。出席者は、町内対象者303人のところ233名で、出席率は76.9%になりました。また、町内の小・中学校を卒業して現在は葉山にいない方も出席可としておりまして、そういった現在町外の方は37名です。町内・町外合わせて今年二十歳の方は270名の参加になっております。

内容につきましては、お話ありましたが、本式典、予定どおり11時に始めることができました。国歌斉唱、町長・議長の挨拶、それから二十歳の代表の誓いの言葉ですね、そういう流れで例年どおり行われました。お話あったとおり、今までになかった両校の校歌を誓いの言葉の後に歌うということで、これもコロナ禍に学校の卒業式に歌えなかったのが、心残りがあるということで、実行委員の中で話し合われて実施をしたものです。

式典の終了後に、恩師の紹介ですね。先ほどお話にあった。本年度は31名の先生方がお見えになりました。それから、これはいつも無かったのですけれど、知り合いのいない方とかは、祝賀会に出ないで帰ってしまう方もいるため、みんなで写真を撮りたいということで、会場内で全員で写真を撮りました。その後、祝賀会に流れるという形になりました。

祝賀会会場ですが、大会議室において行われ、来賓も含めると恐らく300人以上入っていたかと思います。会場が狭く今回は軽食と飲み物も少なめにして、テーブル配置を昨年度の形から変更して、なるべく中に入れるような形をとりました。葉山小学校体育館でという案もあるんですけど、移動が大変ですので、恐らく今後も大会議室で実施する方向ではないかと思います。

祝賀会のほうでは軽食を用意して、あとは前方に、小・中学校時代のスライドを実行委員会のメンバーが作成をして、スライドショーとして流す形になりました。

終わりは13時過ぎに外で最後にまた集合写真を撮って、それでお開きという形になりました。警察の方も来ていただいたんですが、特にトラブルもなく、無事に終了しております。

最後は、天候もよかったもので、外で写真撮り合ったり、ずっと残って語り合ったりされていました。自分どもの全部撤収作業は3時に終わったんですが、その頃ちょうど皆さん帰途について全員いなくなっておりました。

本年度ライブ配信は行いませんでした。コロナ禍も終わって、他市の状況もライブ配信をやめていくという流れがあります。こちらでは動画撮影、写真撮影をしていますので、こちらを編集して、後日ホームページに載せる予定です。保護者の方からも、何か載らないんですかねという声も聞きました。今、編集作業を進めているところで、後日、ホームページにアップをしたいと思っております。

二十歳のつどいについては以上となります。

次に、草津のスキー教室ですね。こちらは第56回町民スキー学校ということで、1月23日（木曜日）から1月25日（土曜日）、3日間、草津町、温泉スキー場としてスキー教室が開催されます。参加者なんですが、男性が30名、女性が20名の合計50名、ちなみに前年は46名でした。スキーが39名、スノーボードが10名、今年はスノーシューのみをやるという方が1名いらっしゃいます。役員として、スポーツ協会、スキー協会、生涯学習課の職員合わせて15名、合計65名、バス2台で向かいます。講習のほか、例年同様ですね、天狗山の山頂でのスカイウイングという空中ブランコですね、同じく天狗山の山頂からグレンデの下まで張られたワイヤーロープを専用の滑車とハーネスで空中を滑り降りるというようなジップラインというアトラクション、あとはスノーシュー、これは西洋のかんじきですね、それを履いて歩いて自然観察を楽しむ、というオプションツアーも例年どおり予定をしております。

現時点では、雪のほうは80センチぐらいあるということです。道路のほうは路肩には積雪あるんですが、道路上には積雪はなしということで、あとは強風が吹かなければ充実したスキー教室を迎えられるのではないかと考えております。

以上、簡単ですが、報告を終わらせていただきます。

教 育 長) ありがとうございます。2点報告がございましたが、何かございますか。

よろしいですか。特になければ、各課からの報告を終了いたします。

(その他)

教 育 長) 続きまして、日程第5「その他」に入ります。

委員の皆様から何かございますでしょうか。鈴木委員、お願いします。

鈴 木 委 員) 学校内での盗撮が増えている。去年で言うと、中学生が83名、高校生が百数十名だったかな。これ、逮捕されているということなんです。その盗撮したのを、大人があおって売買していると。これはやっぱりよほど気をつけないと、今後ど

んどん増えてくる。だんだん小学生まで落ちてくるんじゃないかと思っているんですけど、この辺の家庭への認知度といいますかね、もっと上げてもらいたいです、正直言うとね。こういうことをやって、なおかつ子どもにお金を渡して大人が盗撮させるという行為が盛んだと。特に学校、警察が入りにくいという場所なので、なかなか押さえるのは難しいんだろうけど、学校の協力が必要なんだということなんですけど、学校側はあまり生徒に逮捕されてほしくないというところもあるのでね。これ、保護者も含めて、教育長が校長会等のときに、こういう問題がどんどん増えてきて、それが低年齢化するということに注意を払っていただきたいと。どうしてもご家庭のところは甘いんですよ、私からするとね。ですから、その辺をもっと家庭に周知徹底をお願いしたいと。下位さんから何か意見があればお願いしたいなと思ったんですけども。

下位委員) まず、葉山の小学校・中学校の子どもたちはスマートフォンを学校に持ってきたとしても、預けるというルールになっているので、校内で使うことは基本的にはできないかなと思います。教育という意味では、確かにもちろんやったほうがいいですし、親も子どもに伝えにくい部分なんだと思うんですよ。ただ、私もニュースとか新聞で見ますと、GIGA端末、今、皆さんが使っていて、GIGA端末を置きっぱなしにして、カメラ起動しっぱなしにして盗撮したとか、そういう事案は確かに起きているみたいなので、そういったことも含めて、何かやっぱり伝えていって、そういうことはしないほうがいい、するところということになるとかというのは教えていったほうがいいのかなと思いますが、今は多分何もされてないんじゃないかなと思います。

教育長) 盗撮事案は、高等学校にいたときに現実的に対応したことが何件もあるので、教育の現場でのかつては、盗撮はありましたが、やはり今、年々年々数が増えてきておまして、学校としても対応ができない状況ぐらいまでになってきているのも事実です。かつては、校内の児童・生徒指導担当が何とか子どもたちを守るという方向性の中で、警察事案にしない方向性を持っていたと思われま。ただ、一方それでやりきれないという部分で、何年か前の、県立高校で言うと生徒指導担当者会議の折のところから、盗撮については有無を言わず警察への通報という形に考えが変わってきています。

高等学校と小・中学校、少し違うところは当然あると思いますが、なかなか難しいところがあって、特に鈴木委員がおっしゃっていたとおりで、保護者の方々がその事案というものはどういうものであるのかということ、やはり理解をしていただくような啓発をしていくべきだと思っています。なかなか事案によって、人によって違うんですが、結構根深いいろいろなものを包含されている

場合もあるので、単純に学校だけで解決ができない状況がある場合があるので、これについては児童・生徒担当者含めて、小・中学校は学警連というものが動いていますので、葉山署の方々もそういうことについてのことは当然、どう啓発をするかという考え方もお持ちでしょうし、神奈川県全体の中での事例がどれだけあるのかも分かっていることだと思います。学警連の関係のところも含めて、どう連携をとっていくのかということについては、ぜひ考えさせていただけるとありがたいと思っています。ご意見ありがとうございます。

鈴木委員) 今で言うと、被害者側は非常にショックを受けるそうなんです。ところが、加害者側は、悪いことをしたという認識が少ないそうなんです。警察も、これは非常に苦慮してしまっていて。ですから、啓発をしてほしい。例を挙げながら、それがどういう大きな罪になる。盗撮、かなり重いんですよ、実はね。たまたま未成年なので、ある程度許してくれるんですけど、くせになるといいますかね、やるほうは、悪さをあまり高く置いてないのですね、いかにそれが被害者に与える影響が大きいかということと、実際、高校ぐらいになってくると、罰則かなりきついでね、そこのところもうちょっとご家庭でも徹底して、自分の子どもに説教するんじゃないで、実はこういうことがあってね、というような話をしがてら、被害を受けた方の恐怖心みたいなものをうまく家庭で。今、教育長が言われたように学校では無理があるんです。ですから、家庭でもそういうことをやってほしいと、はっきりね、教育委員会としてお願いするというのが大事なんじゃないかなと。何でもかんでも学校が処理するじゃないのですね、それをぜひお願いしたいと思います。

教育長) 分かりました。ありがとうございます。

ほかに何か委員のほうからございますでしょうか。よろしいですか。

そうしましたら、特になければ主な行事予定について、教育部長のほうから説明をいたします。よろしく願いいたします。

教育部長) 1月23日(木)、県町村教育長会研修会。

23日(木)～25日(土)、第56回町民とスキー学校(草津町)。

24日(金)、湘三管内教育長会議。

2月7日(金)、楽校改革戦略会議。

定例校長会議。

市町村教育委員会研究協議会

9日(日)、かながわ駅伝。

12日(水)～、町議会第1回定例会。

26日(水)、定例教育委員会。

26日の定例教育委員会の予定はよろしいでしょうか。

それでは、26日、10時から定例教育委員会ということで、よろしく願いいたします。

教 育 長) ありがとうございます。2月7日の市町村教育委員会研究協議会は、これ、文科のやつだと思うので、鈴木委員と私は多分、新橋だと思います。ほかの委員の方々はオンラインで明日ですかね、あると思いますので、ぜひぜひよろしく願いしたいと思います。ありがとうございました。

それでは、以上をもちまして本日の日程は全て終了いたしましたので、これにて閉会といたします。時刻は11時46分でございます。